乳癌長期クリニカルパス　　　　　　　　　様

項目	入院日（手術前日）	手術当日	手術後1日目から	2日目から退院（8日目）	退院後
観察	看護師が訪室し、体温、血圧、症状を観察します	傷の出血、腫脹、排液の性状について観察します。			
安静	制限はありません。	ベッド上安静です。 床ずれができないよう寝返りをしてください。 2時間後から歩行できます。最初は看護師と一緒に歩きます。	傷が治る過程で皮膚の拘縮が起こるため、動かさないでいるとつっぱり感が強くなり、腕を上げにくくなるなど運動障害がおこる可能性があります。 ストレッチ運動を1日3回、手術後2ヶ月は続けましょう。 ＊動かしにくいときは、入浴やマッサージをして、血行を良くしてから行ってみてください。 ドレーンを体につけて歩行します。 （ドレーンは量が少なくなったら抜きます。） ＊人工物再建を実施した方はドレーンが抜けるまではストレッチはせず90度までの上肢挙上となります。		
食事	21時以降より絶食となります。 1例目の手術の方は、飲水もできません。 うがいはいつでもできます。 	手術2時間前から絶飲食となります。 （詳しい時間は、看護師が前日に伝えます。） 手術2時間後から水やお茶が飲めます。 （初回は、看護師が持って行きます。） 手術後、うがいはいつでもできます。	 朝食事が食べられます。		
清潔	入浴またはシャワーに入れます。爪を切り 		シャワー浴ができます。 シャワーの前後に看護師が傷を観察します。	シャワー浴ができます。 ドレーンが抜けた翌日からは入浴できます。	傷は保護剤（テープ）で覆っていますのでそのまま入浴できます。 ☆保護剤は通常2～3週間で剥がします。一部が剥がれたりひび割れが起こっても傷の中に水が入る心配はありません。保護剤は無理に剥がさないでください。もし剥がれてしまった場合は、市販の絆創膏やガーゼにはりかえて頂いてもかまいません。
排泄		手術2時間後にトイレに行くことができます。それまではベッド上で尿器を使用します。			
診察処置		手術後 、病棟に戻り回復室へ入ります。 （2時間後大部屋に戻る場合もあります。） 心電図モニターや必要時には酸素を使用します。 （問題なければ2時間後に外します。） 傷のところに管が入ってきます。	看護師がドレーンの量を観察します。 毎朝、医師が診察を行います。 感覚の神経（知覚神経）が再生してくるため、しびれ、ひりひりする感じや痛みが生じることがあります。 これらは回復に伴うものであり心配いりません。		
検査	超音波（エコー）の検査をします。				
薬物療法	必要な方は睡眠薬を飲むことができます。 薬剤師が薬の説明に伺います。	痛みがある場合は痛み止めを使用できます。 看護師に伝えてください。	痛みがある時は、痛み止めを内服します。		
説明	入院中の注意点・手術に関する説明などを看護師が行います。 回復室に持っていく荷物をまとめていただきます。	 出血がない。 痛み、はきけ、不安、疑問などありましたら、医療者に伝えてください。	リハビリ用のDVDを見ます。 腕の動きが悪くならない様にストレッチ運動を頑張りましょう。 ストレッチ運動は1日3回15～20分ずつが目標です。	 	ドレーンを抜いたあと傷口付近に血液やリンパ液が溜まってくることがありますが、時間と共に必ず吸収されていくため心配いりません。以下の症状を伴う場合は、感染が考えられますので、外科外来へ電話でお問い合わせください。 ☆発熱：38度以上（傷と反対側の腋の下で測定） ☆傷の赤み・痛み・食欲不振・倦怠感☆腕の動きが悪くならない様にストレッチ運動を頑張りましょう。ストレッチ運動は1日3回15～20分ずつが目標です。
目標	病状がわかり、納得して治療が受けられる。	痛み、はきけ、不安、疑問などを医療者に伝えられる。	ストレッチ運動の必要性と方法がわかり、取り組むことができる。 薬の必要性を理解した上で服用ができる。	退院後の傷の管理とストレッチの方法が理解できる。	

＊症状、状態によっては予定通りにいかない場合もあります。
＊何かご心配なことがありましたら、外科外来へ電話でお問い合わせください。
代表電話：053－474－2222
　月～金　8:30～17:00　は外科外来。
それ以外の時間帯は聖隷浜松病院救急外来へ連絡をお願いします。

2000年3月作成（2021年10月改訂）
聖隷浜松病院C8病棟